

令和五年度 奈良県教育長賞

酒税について

十津川高等学校 二年 池部 静音

この作文を調べるにあたって、自分なりにネット検索をして色々な税金が出てくる中「酒税」という税金が私の目に止まりました。目に止まった理由を述べると、私の父と母はお酒が大好きで特に母がお酒をほぼ毎日飲むほどです。そして将来的にお酒関連の仕事に就きたいと思っていることもあり、酒税が気になり作文を書こうと思います。

酒税とは、大きく分けて日本酒・焼酎・ワイン・ビールなどのお酒にかかる税金のことです。アルコール分一度以上の飲料が対象になり、税額はお酒の種類やアルコール度数によって異なり、ビール40%・リキュール30%・果実酒20%など細かく決められています。例として缶ビール350mlで77円、清酒1.8Lで252円のように決まっています。つまり、仮にビール1缶250円をスーパーで買うとすると、そのうち77円は酒税の分として払っていることになります。外国との酒税の比較は、ビール350mlで日本は70円、それに対してイギリスは39円、アメリカは7円、ドイツは4円。これほどまで大きく差が開くのかと思うくらいに差が開いています。ですがそれらの税金は、健康や生活を守る社会保障費に33.7%・国債の返済や利子の国債費に22.6%・地方を支援する地方交付金等に14.8%・道路や住宅などを整備する公共事業費に5.6%・教育や科学技術の研究の文教・科学振興に5.0%・国の防衛のための防衛費に5.0%も役立てられています。そこで酒税の問題点を考えると新型コロナウイルスの影響によってお店でのお酒の提供が減っていることです。このことは感染予防により、飲み会などができなくなったり、酒類提供禁止も出てきて売上に影響が出そうということが相次いだそうです。そしてもう一つ問題点があり、現在お酒が値上がりをしているところです。ですが2023年10月の酒税法改正によりビールの税金が大幅に引き下がる見込みのようです。

私は酒税法改正によりビールの税金が大幅に減ることは良いことだと思います。人の娯楽の一部にはお酒を嗜むということもあります。少し前は娯楽であった対面で喋り会えた飲み会などがリモート飲み会、自宅でリモートをしながらでの飲み会になったりと、少し楽しみがなくなったりしています。それに加えて缶ビールなどの値上げの追い打ちもありました。なのでビールの税金が低くなることは良いと思います。

今回、酒税について調べてお酒によって税金が違ったりすることや、税金の引き下がることなどがわかりました。これからも様々な税について興味を持っていきたいと思っています。